

# 看護観察技術論

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：バイタルサインの測定及びフィジカルアセスメントを中心とした技術演習を行い、看護過程の一部である状態把握の基礎技術について学ぶ。

■**到達目標**：①看護における観察の目的を説明する。

②正確なバイタルサイン測定やフィジカルアセスメント技術などの観察技術を用いて、看護に必要な情報を収集する。

③援助者としての適切な姿勢や態度を理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎田中 広美・大野 夏代・檜山 明子

■**授業計画・内容**：

第1回 観察とは

第2回 環境の調整、病床環境

第3回 臥床患者のリネン交換

第4～7回 バイタルサイン

第8回 健康歴の聴取と身体計測

第9回 フィジカルアセスメント 神経・運動

第10回 フィジカルアセスメント 消化器（腹部）

第11回 フィジカルアセスメント 呼吸

第12回 フィジカルアセスメント 循環

第13回 フィジカルアセスメント 感覚器（眼・耳）

第14～15回 フィジカルアセスメント総合

■**教科書**：小野田千枝子監修（2008）. 実践!フィジカルアセスメント. 金原出版.

茂野 香おる他（2015）. 系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術I 第16版. 医学書院.（後期の基礎看護技術論でも使用します）

茂野 香おる他（2017）. 系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術II 第17版. 医学書院.（後期の基礎看護技術論でも使用します）

■**参考文献**：山内豊明（2011）. フィジカルアセスメントガイドブック. 医学書院.

山内豊明（2014）. フィジカルアセスメントワークブック-身体の仕組みと働きをアセスメントにつなげる. 医学書院.

■**成績評価基準と方法**：筆記試験・実技試験90%、提出物等10%。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
試験(筆記・実技)	◎	◎	◎		90%
演習レポート	○	○	○		10%
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：基礎看護技術論、看護過程論、形態機能学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：看護の対象を理解するための観察技術と、その観察技術に必要な看護師としての基本的な態度について学びます。

身体のおしくみと働きについて理解するためには多くの知識が必要です。事前・事後学習が重要ですので、主体的な姿勢で取り組んで頂きたいと思います。

「基礎看護学臨地実習I」を履修するためには、本科目の単位を修得していることが望ましいです。

内容に変更があった場合は、第1回目で提示します。